

事業所名 おおさ苑グループホーム
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成17年11月 1日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 生活指導員
資格・経験 介護支援専門員、介護ヘルパー2級、社会福祉主事、訪問介護員
B: 現職 看護師、介護支援専門員
資格・経験 看護師(37年以上)、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

東北中国山地の静かな高地にあり、谷間を見下ろす眺めは絶景である。

個人の独立した生活を尊重して、それぞれの居室にトイレが設置されている。

母体の法人は、県下でも早くから福祉施設経営に取り組んでおり、障害者療養・高齢者介護は長い経験に基づいている。人的資源も多く、蓄積された知識をホームの運営に活かし、合理的かつ人間愛中心のケアを行っている。

地域の一体性を特に重要視し、地元の在宅福祉の中心として地域に大きく貢献している。地域の信頼は厚く、地域協働性は認知症を緩和し、ホームを活性化している。

認知症ケアについては、職員全員が事例をもとに常に研究し、サービスの質向上に取り組んでいる。課題を定めて研究発表もしている。その内容は評価すべきもので、運営理念にある、生き生きとした人間愛あふれるケアサービスが期待出来る。

管理、運営にはコンピュータを導入しており、職員は入居者の情報を共有できる。合理的・的確な運営管理がなされ、ゆとりのある介護がなされている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

地域との一体性をより強化し、機能的にも社会福祉の中心となり、より内容のあるケアのコンセプトを確立すれば、認知症介護の先進的施設として模範になっていくものと思われる。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>地域社会との結びつきを重要視している。入居者の社会参加と地域とのふれあいを進め、自立を目指している。</p> <p>「人間愛と奉仕の精神で一人ひとりが生き生きと、心の和むぬくもりのある生活」を基本にしている。入居者の人格・人権を尊重し、家庭的で愛情あふれる環境の中で、入居者主体のサービスを行い、認知症の緩和と進行を遅らせることに努めている。</p> <p>一人ひとりの生活体験を大切に、ニーズに応じた終末ケアや家庭復帰を考えている。職員一人ひとりが、自分は何が出来るのかを常に研究し合い、入居者の今を大切にすることを目標としている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>共有空間には、椅子、畳、マッサージ機などが置いてある。ガラス戸を開けるとテラスに出ることもできる。集団の中でも自分の好きな位置や場所が見つげ出せ、のんびりと過ごせる雰囲気がある。</p> <p>一人で楽しくしている方には職員がそばに寄り添い、話や散歩をするなど、共に心を開き、落ち着いて過ごせるようにしている。</p> <p>併設の特養・デイサービスと一館の音楽療法・フットケア等に参加し、交流している、楽しく意義ある生活の中に安らぎと平安を得るようにしている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者のライフスタイル、人生経験、職業、能力、価値観などをよく把握して、作業や生活リハビリ、趣味活動に活かせるように計画を立てている。</p> <p>本人の意思を尊重し、自由に振舞ってもらっている。外出や買物も自己決定するように支援している。</p> <p>個人に関する諸書類は、鍵を掛けて保存している。家族、知人等の面会簿は他に分からないようにしており、個人のプライバシー保護に留意している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>外部研修などの出張報告書を必ず記録している。職員会議で伝え、グループホームとしての姿勢を語り合い、職員の意識の向上に努めている。</p> <p>朝・夕の申し送りを徹底し情報伝達を確実にしており、入居者は安全で快適な生活を送っている。夜勤マニュアル、清掃マニュアル等を設け、勤務や業務の確実性を図り、統一した自然な介護を行っている。</p> <p>ケアの基本は職員の資質・姿勢であるとして、職員の心身安定を図るため、手厚い職員厚生制度を設けている。職員が安心して働き、勉強できる環境を作り、サービスの質向上に努めている。</p> <p>事故及びヒヤリハットの結果記録には、発生原因と対応策を必ず残している。全職員に回覧し、確認後は印を押し、再発防止に努めている。転倒・火傷・誤嚥・行方不明発生時などの緊急時には、直ちに適切な行動が取れるように「マニュアル」を個々に作っており、ハザードシステム(緊急時対応方法)がしっかりしている。</p>		